



青森県漁業士会会報

28.3 vol.23

# 浜風 HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会  
青森県水産振興課内  
017-734-9592  
編集：「浜風」編集委員会



## 平成27年度青森県漁業士会総会開催



総会



工藤喜代作名誉漁業士

平成27年5月22日（金）、青森県漁業士会通常総会が開催されました。総会後の研修会では、工藤喜代作名誉漁業士から「温故知新」と題してこれまでの活動について講演がありました。また、「『知って、好きになって、自慢したくなる』あおもり再発見の話」や「うま味で減塩！青森県の健康『だし』！！」などについての講演もありました。

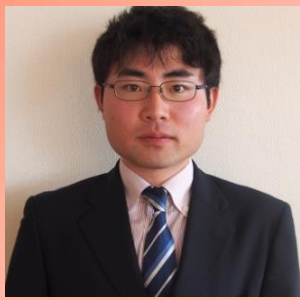


## 新会員の紹介

平成27年度は、1名の青年漁業士が指導漁業士に移行し、新たに2名の青年漁業士と2名の指導漁業士が認定されました。認定式は、平成28年1月27日に第57回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会の場で行われました。



## ○東青支部会



三厩漁協  
**柳谷 隼**  
(マグロー本釣)

この度、青年漁業士の認定を受けました柳谷です。

私の家では、マグロー本釣漁をしています。マグロ漁では、マグロを釣る技術を学んでいながら釣った後の処理で、なるべくヤケ肉が出ないように努めています。

また、マグロ以外にも様々な漁法を学びながら、今後、漁業士として地元の漁業者と協力しながら頑張っていきたいと思えます。



外ヶ浜漁協  
**高森 優**  
(ホタテガイ養殖)

この度、青年漁業士の認定を受けました高森です。

ホタテ貝養殖を中心に営んでおります。近年は、自然条件が不規則でホタテ貝養殖にとっても不利な状況ですが、漁業士会を通して各地の仲間と共に見識を深め、青森県の漁業発展のために頑張りたいと思っております。

今後ともよろしくご願ひ致します。



青森市漁協奥内支所  
**高森 一彦**  
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました高森です。

私は、ホタテ養殖と底建網を営み、網では主にタイとヒラメを漁獲しています。

漁業士会での活動に積極的に参加し、知識を学ぶとともに交流を深め、発展に貢献して行きたいと思っております。



三厩漁協  
**伊藤 大作**  
(マグロー本釣)

この度、指導漁業士の認定を受けました三厩漁協の伊藤です。

マグロー本釣漁を主体として営んでいますが、漁業経営の安定と魚価の向上のために、鮮度保持技術の向上に取り組んでいきたいと考えています。

また、各地の漁業士と連携し、漁業発展のため頑張っていきたいと思っております。

## ○むっ支部会

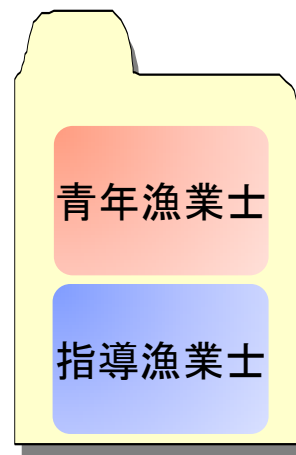


川内町漁協  
**菊池 傑**  
(ホタテガイ養殖)

この度、指導漁業士の認定を受けました川内町漁協の菊池です。

私は主にホタテガイ養殖に従事しており、今年は貝の成長が良く順調な年でしたが、陸奥湾では夏期高水温による大量へい死が依然として懸念され、環境に応じた養殖管理が重要であると考えています。

今後は、これまで青年漁業士として培った経験を活かし、後継者の育成や地域漁業の振興に貢献していきたいと思っておりますので、関係者の皆様のご指導とご協力をお願いします。



今年の東北・北海道ブロック漁業士研修会は、平成27年11月13～14日に福島市で開催され、13日に講演、活動報告、意見交換を行い、翌14日に相馬双葉漁協の漁業関連施設を視察しました。

13日の講演会では、現在も福島第1原発事故の影響が続いていることや福島県の震災後の漁業復興状況が紹介されました。

福島県では、水産物の放射性物質検査では基準値を下回っているものの、現在も29魚種に出荷制限がかかっており、68魚種が試験操業という形で採捕し、放射能検査後に出荷しており、今後は、出荷対象魚種の拡大と風評対策、自主検査体制整備に取り組んでいくということでした。

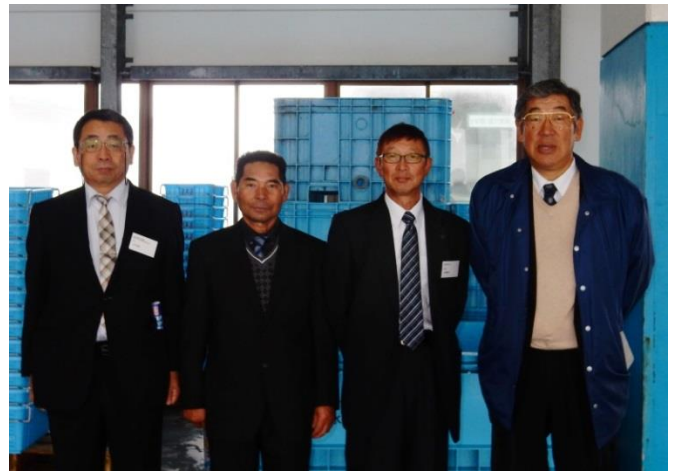
また、活動報告と意見交換では、各県の活動状況を報告した後、漁業士会の全国組織化について意見を交換しましたが、各県の意見が異なるため、今後も協議を続けていくことになりました。

懇親会では、地元福島県の漁業士から、今でも震災前のように沖に出られないことや浜から漁業者がいなくなっていること、出荷規制が解除されても漁業を続けられないのではないかと不安を持っていることなどの話がありました。

14日の現地視察では、相馬双葉漁協を視察しましたが、震災後4年が経っているにもかかわらず、荷さばき施設がようやく今年度中に完成予定ということでした。また、出荷するための放射能検査では、最新式の測定機器が導入され、1魚種1検体の測定に1時間以上かかっていたものが5～20分で測定できるようになり、出荷をスムーズにできる体制が整いつつあります。

今回現地を視察してみると、思ったほど復興は進んでおらず、まだまだ道半ばという印象でした。

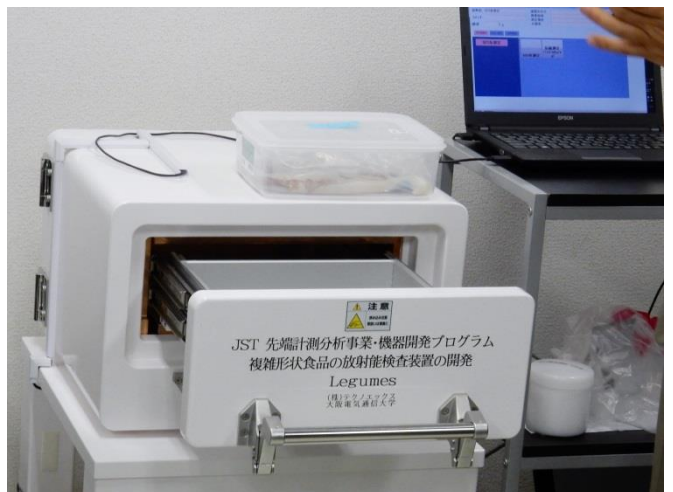
来年の研修会は、秋田県で開催されます。



震災で被害を受けた施設内で



建設中の荷さばき施設



最新式の放射線測定機器



## 平成27年度東日本女性漁業士交流会

東青漁業士会 江戸 英子



平成27年8月20日、東日本女性漁業士交流会が岩手県のホテル東日本盛岡で開催され、青森県からは4名の女性漁業士が参加しました。

交流会では話題提供として、この交流会の生みの親である岩手県名誉漁業士の東谷幸子さんが「震災復興における女性の役割について」と題して講演されました。

最初は他県の意見を取り入れるために始めた、岩手と宮城の2県での交流が、今では青森から千葉まで5県の交流へと輪が広がり、女性漁業士の意識向上に繋がっているとのことでした。

震災の時には東谷さん自身も船や養殖施設の被害にあいながらも、避難所に行き、その日から5ヶ月間、食事の支度等を続けたそうです。そのとき、地域の人達や若い部員達が積極的に活動してくれ、自分の今までの女性漁業士としての活動を見てくれたのだなと思ったそうで、「浜で一生懸命働いている姿を見せる事が大切です」と講演されました。

その後は5～6名のグループに分かれ活発な意見交換が行われました。後継者問題、生産物の価格低迷、高齢化が進む中での労働力の確保など各県共に現状は大変なようですが、後継者がいる私は幸せなのだと思いました。

残念ながら今回は日帰りの日程で、懇談会には参加できませんでしたが、平成28年度は青森県で開催の予定ですので、“おもてなしの心”でお迎えしたいと思います。



## 平成27年度東日本女性漁業士交流会

日本海支部会 鱈ヶ沢漁協 長内 詩子

8月21日から22日、日本海ブロック漁業士研修会が山形県酒田市を中心に開催されました。1日目、酒田市内のホテルでの研修会では、水産庁防災漁村課の田村氏が「漁村の活力創生を目指して～浜の活力再生プランの取組について～」と題して講演され、

世界へ「和食文化」を発信するため、農林水産品の輸出の増大を目指し水産日本の復活に向けての提案など興味深いお話でした。

また、話題提供では、山形県漁業士会の鈴木氏から「庄内おぼこサワラの取組」として、独自の鮮度保持技術と築地限定で出荷する試みなどが紹介されました。「魚を獲る」のではなく「魚の商品を作る」という考え方は、これからの漁業に必要なのではないかと思えました。

その後、各県の活動発表では当支部会で春に開催した料理教室についての質問があり、周知方法やメニュー、料金など詳しく説明しました。

2日目の善宝寺のご祈祷は、朝一番ということもあり、荘厳な中で行われ、とてもありがたいものでした。加茂水族館は、地元の魚やクラゲに特化していました。クラゲに対しては良いイメージのない漁業者が見ても、幻想的で美しく感じました。

2日間で盛り沢山の研修をさせていただきましたことを感謝しております。



研修会



善宝寺でのご祈祷



## 支部会トピックス

### ○東青漁業士会

### 平内町漁協清水川支所 八戸 翼

1月27日、第57回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会で、東青漁業士会の中村拓也理事が、「新鮮なおいしい魚介類を提供します」と題して当会の食育活動について発表しました。男前もさる事ながら、なかなかの美声でとても聞き心地の良い発表でした。



中央卸売市場食育祭などでは、対面販売の難しさに戸惑いながらも、他のブースの商品をお土産に買い漁ったり、青森の様々な名物を堪能できたりと、多忙の中、仕事を休んでこの様な活動を楽しみながらできる事は大事なことで改めて思いました。

今後も東青漁業士会では、楽しみながら新鮮な魚介類を提供していきますので、その際にはご来店お待ちしております。

私たち青森県漁業士会むつ支部会は、現在72名で構成され、子供たちを対象とした水産教室、研修会の開催、各漁協での海浜清掃などを行っています。

4月から12月の「3の付く日」には、むつ来さまい館駐車場で『3の市』を開催し、12月28日にはお客様に1年間の感謝をこめて、年末年始用の魚の販売や抽選会を行っています。平成3年から始まった『3の市』も、今年で25年目を迎え、地域の皆さまにも浸透しています。他にも、下北地域の活性化を目的とした第22回豊漁・豊作祈願祭を10月に開催しており、こちらのイベントにも多くのお客様に足を運んでもらっています。これからも鮮度の良い下北産水産物をPRし、消費者の皆様に魚を食べてもらうよう頑張っていきたいと思えます。

最後に、誠に残念ながら、今年度も下北では海難事故による死亡者が出ています。沖に出るときはライフジャケットの着用をお願いします。



第22回生産者による豊漁豊作祈願祭の様子（10月10日）

## ○日本海支部会

### 日本海支部会料理教室

漁業士会日本海支部会では、5月29日に鱒ヶ沢町舞戸公民館において料理教室を開催しました。当支部会の長内指導漁業士、松山指導漁業士が講師となり、鱒ヶ沢町内の女性約15名に地元産のタイ、ヒラメ、ワラサ、ホウボウなどの魚の捌き方を指導しながら、海鮮丼など作りました。なお、今回使用した魚は日本海支部会の漁業士が提供したものを使用しております。





## ○三八漁業士会

### 「八戸イカの日大研究」

8月10日に八戸市水産科学館マリエントにおいて「八戸イカの日大研究」が開催され、畑中敦子指導漁業士が講師となって料理教室を行いました。

初めてイカに触れた子供も多く、生のイカに苦戦する子供たちを当会の深川会長、沼辺監事、関野青年漁業士がサポートし、捌いたイカは、イカ焼きそば、イカ大根、酢味噌和え、チリソースで美味しくいただきました。



# 青森県漁業士会員が山本護太郎賞を受賞！

青森地方水産業改良普及所 山内 弘子

平成28年1月6日、青森県水産ビルにて開催されたほたて新年会において、ホタテガイ養殖の功労者2人に山本護太郎賞が授与されました。



山本博士は、「陸奥湾ホタテガイ養殖の祖」とたたえられており、昭和50年の養殖ホタテガイ大量へい死の際、国の調査団長として来青し、へい死原因は「過密養殖と不適切な養殖管理に水温の急上昇が加わって発生した」と特定されました。また、このようなへい死を防ぐため、陸奥湾におけるホタテガイの許容枚数を算定し、総量規制の概念を示すと共にホタテガイ養殖の基礎研究にご尽力され、今日の陸奥湾ホタテガイ養殖業の発展に貢献されています。

本賞は平成20年度に創設され、山本博士の功績を継ぎ、模範となっている漁業者に贈られており、第3回までで3個人1団体が受賞しております。

今回は第4回目で、福田隆一名誉漁業士と神山義照東青漁業士会長が表彰されました。



# 受賞者の喜びの声



福田隆一 名誉漁業士



山本先生とは一度お会いしたことがあり、先生の賞をいただくことができて光栄です。

私は、6月18日（ホタテの日）に生まれ、ホタテ養殖を昭和44年から始めました。現在は「採苗速報」から欲しい情報が入手できますが、当時は産卵時期、ラーバの数、ラーバがいる水深等全く分かりませんでした。

手探り状態の養殖工程を試行錯誤した結果、分ったことは、少ない中から選べば良い貝ができることでした。

最初は妻と二人三脚でしたが、現在は息子が加わり、半成員を全体の2割、成員、活貝を8割と、3年間養殖する成員・活貝づくりに主眼をおいて仕事をしています。

これからも山本先生の教えのとおり枚数を少なく入れ、良質の成員・活貝づくりに邁進していきたいと思っています。



神山義照 東青漁業士会長

高品質なホタテガイを生産できるように妻、息子と共に工夫しながら養殖に努めてまいりました。これまで家族で取り組んできたことが評価されて感無量です。

近年、養殖残渣の処理が問題視されていますが、私たちは、昨年洋上箒洗浄機を導入し、朝の出荷を終えてから洋上箒洗浄を行い、残渣を軽減するために努力しました。その結果、ホタテガイ養殖を始めて以来、見たことがない水揚量に達しました。その上、山本護太郎賞をいただき、一生でいちばん良い年になりました。

また、妻は、私の片腕として何の文句も言わずについてきてくれました。私は、感謝しながらも何も言わずにきたので、私ごとですが、この場を借りて「ありがとう」の言葉を妻に贈ります。私には頼もしい後継者がおりますので、今後も自然環境を読み取り、高品質なホタテガイを生産できるよう、お互いに切磋琢磨していきたいと思っています。

## 第57回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会

平成28年1月27日、青森市の県民福祉プラザにおいて「第57回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」が開催されました。4人の発表者がそれぞれの研究テーマに沿って、その活動の実績を発表し、優秀賞には「半世紀にわたる漁場造成の歩み～これからも尻屋の海とともに～」と題して、尻屋業協同組合 尻屋漁業研究会 南谷彰人さんが選ばれました。

南谷さんは、平成29年3月に開催予定の「第22回全国青年・女性漁業者交流大会」で、本県代表として発表することになりました。

※「第58回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」の開催日は、平成29年1月25日(水)です。



## 第21回全国青年・女性漁業者交流大会

平成28年3月1～2日、東京都千代田区のグランドアーク半蔵門で開催された「第21回全国青年・女性漁業者交流大会」で、「第56回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」で「陸奥湾産種苗を使ったマボヤ養殖技術の確立～複合養殖へのチャレンジ～」で優秀賞を受賞した、後潟漁業協同組合 後潟漁業研究会 工藤二郎さんが、水産庁長官賞を受賞しました。



## 鹿児島県漁業士会による「低利用魚商談会」

平成28年2月3日、鹿児島県漁業士会から「低利用魚商談会」の案内をいただき、澤田、川端、秋田指導漁業士と鷲尾、中村青年漁業士が参加しました。

「漁業士と連携した低利用水産物価値創出支援事業」で行われたもので、参加者はトビウオ、ガンガゼ、アオサの加工品に興味を持ち、担当者に加工方法や手順を聞いたほか、食品メーカーの担当者に、商品開発について相談していました。また漁業士間では、お互いの漁法や獲れる魚種について、情報交換するなど有意義なものとなりました。





# 水産行政トピックス

## 「ホタテガイ生産額168億円」

農林水産部水産局水産振興課  
栽培・資源管理グループ

平成22年の夏に発生したホタテガイの異常高水温被害に対応するため、関係者が一体となって養殖管理情報の提供や養殖管理技術の改善などに取り組んだ結果、平成27年のホタテガイ生産数量は10万2,800トン、生産金額は168億6,000万円となり、昭和35年以降では生産数量で第3位、生産金額では第2位の好結果を記録するまで回復しました。

こうした状況を継続させるためには、適正養殖可能数量（TASC）制度の適切な運用で生産数量の安定に努めるとともに、需要拡大による価格の維持向上を図り、海外市場への輸出にも積極的に対応することが大切です。

そこで、平成28年度からは、現在EUに輸出されている冬の卵付貝柱だけでなく、夏の大型貝柱の輸出の可能性について検証するほか、EU向けとなる成員の安定生産技術の開発に取り組んでいくことにしています。

## 「新・ご当地グルメとヒロ中田さん」

農林水産部水産局水産振興課  
企画・普及グループ

現在、青森県では、★「地域の食」魅力創造プロデューサー ヒロ中田★さんプロデュースの水産系の「新・ご当地グルメ」3種が絶好調です。

地場産食材を核に、メニュー内容を一から考えた企画開発型という「新・ご当地グルメ」は、基本的に味、調理法、価格などを統一した複数の店舗で提供されます。青森県を含め、現在70メニューが提供されているそうです。

青森県のトップランナーは深浦町の「深浦マグロステーキ丼」（マグステ丼）です。平成25年6月の提供から予想を上回る人気で、平成27年10月には、「新・ご当地グルメ」では全国2番目の早さで10万食を達成しました。

平内町の「平内ホタテ活御膳」（平成27年3月）、中泊町の「中泊メバルの刺身と煮付け膳」（平成27年7月）も好調です。これらの水産系に加え、平成28年3月には県内4品目の「新・ご当地グルメ」となる田子町の「田子ガーリックステーキごはん」がデビューしました。

同じ品目を地域内のいろいろなお店で食べ比べるもよし、県内を回っていろいろなグルメを味わうのもよしで、県外からの観光客に向けても、大きなアピールポイントになると思われます。

青森県には、まだまだ「新・ご当地グルメ」の種が眠っています。

3月に開催した「浜の未来塾」第12講でヒロ中田さんの講義を受講した「浜のマネージャー」を中心に、是非各地で大きく育てて欲しいと思います。



# 漁業後継者育成研修 賓 陽 塾

## 平成28年度受講生募集のお知らせ

### 【研修内容】

- 1 漁業基礎研修（6月～7月：水産総合研究所）
  - ・水産知識 漁業関係法令・制度、栽培漁業・資源管理簿記漁業経営、ホタテガイ養殖、漁獲物の鮮度保持
  - ・漁業技術 ロープワーク（各種ロープさつま加工）沿岸漁業実習（かご、さし網、釣り）ホタテガイ養殖（試験船なつどまり）
  - ・視察研修 県内の水産関連施設



- 2 資格取得講習（8月～11月：各講習開催場所）

一級・二級小型船舶操縦士（※）、第三級海上特殊無線技士、潜水士

※一級・二級小型船舶操縦士資格取得講習を受講するには、漁業基礎研修を受講することが条件となります。

### 【募集要項】

募集人員：10名程度

通学方法：各自交通手段による通学制（水産総合研究所で行う研修を受講する場合は、同所内宿泊施設の利用も可能）

受講料：無料（資格取得のための経費は各受講者が負担）

応募資格：県内の漁業後継者または県内の漁業へ就業を希望する者（性別・年齢不問）

受付期間：平成28年2月1日～同年3月31日

## 随時受付

### 出前講座

対象：県内の漁協青年部や漁業研究会等の団体 開催人数：10名程度 開催場所：現地

内容：各種ロープワーク（さつま加工等）、水産知識（座学） 開催期間：8月～3月

### 《お問い合わせ》

青森県農林水産部水産局水産振興課企画・普及グループ

電話：017-734-9592

地方独立行政法人青森県産業技術センター水産総合研究所

電話：017-755-2155

東青地域県民局地域農林水産部青森地方水産業改良普及所

電話：017-765-2520

三八地域県民局地域農林水産部八戸水産事務所

電話：0178-21-1185

西北地域県民局地域農林水産部鱒ヶ沢水産事務所

電話：0173-72-4300

下北地域県民局地域農林水産部むつ水産事務所

電話：0175-22-8581